

公益財団法人痛風・尿酸財団
令和2年度 事業計画書

1. 基本方針

痛風だけではなく痛風は発症していない高尿酸血症の人や尿酸が関連する様々な疾患の人も対象としている財団である事を示したいとの思いから、昨年7月1日から財団名を「公益財団法人痛風・尿酸財団」と変更致しました。これにより多くの医師、医学研究者、更には医療従事者、患者さんや一般の方も参加できる財団になると考えております。

一方で、研究者を支える資金の調達は厳しさを増しており、当財団の支援助成事業には関係者の期待も高く、医師や医療関係者を対象とした診療の研修、更には痛風・高尿酸血症に関する啓発活動を活動の柱として国民保健の向上へ寄与する事を財団活動の一貫した基本理念とし運営する。

2. 計画内容

(1) 研究助成

・ 対象者及び対象分野

財団の助成を基に各種研究や新薬の開発など多くの成果が得られているが、今後も成果が期待される研究課題を掲げる団体・共同研究グループ及び個人に対して支援助成を行う。助成は痛風・尿酸代謝に関する臨床又は基礎分野で特色のある研究と一般的研究を対象として応募を受け付ける。

・ 受付期間：2020年9月1日より同10月31日

・ 助成金総額予定 600万円

・ 選考方法

専門分野などを考慮して理事会で選定した選考委員に理事長が委嘱し選考を行う。各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め採点し、その集計結果をもとに12月初旬の選考委員会に於いて審議を行い助成対象者と個々の助成金額を決定する。

・ 研究成果の検証

当該助成による研究成果検証のために、2022年2月までに関係論文の提出を求める。

(2) 第31回 痛風・尿酸研修会

今年度の痛風・尿酸研修会は2020年9月13日(日)に東京慈恵会医科大学で開催する。全国の医師や薬剤師などの医療関係者を対象として、痛風や高尿酸血症についての研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、更に講師との質疑応答を通じて理解を深めることで診療普及に

つなげて行きたい。

本年度の研修会プログラムは財団の山本徹也理事（大阪暁明館病院健診センター長）を中心に本年6月までに決定し公表する予定である。

（3）痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。

「何科の診療を受けたら良いか」「専門の医師が診療に当たっている医療機関は何処か」などの相談に対し、全国の約125ヶ所の痛風協力医療機関を紹介している。しかし、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず研修会参加医師への呼びかけや関係者からの紹介などを通じて協力医療機関を増やすよう努めて行く。

（4）ホームページによる啓発事業

インターネットの普及も反映して財団ホームページへのアクセス数は増加傾向にある。（2018年：265万件、2019年：352万件）

これに応えるべく痛風や尿酸の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず患者さんに役立つ情報の提供を心掛けたい。

今年度計画しているホームページの改定に合わせて一層の充実を計る。

（5）小冊子「尿酸値をコントロールする」及び会報の発行

尿酸値に関する情報を要約している小冊子への要望は多く、協力医療機関を通じて希望する患者へ広く行き渡るよう手配するほか、個々の希望者に対しては都度対応して行く。

又、研究成果や医学情報などを掲載した会報を1月と8月の年2回発行し賛助会員や関係者へ送付することで情報伝達を計っていく。

（6）一般の方からの質問に対する対応

患者や家族や一般の方からの質問や問い合わせ件数は増え続けており、その質問の内容は医療機関の紹介依頼から始まり、食事や飲料に関する注意点や痛風の治療に関する事など多岐に亘る。各々の質問に対して痛風協力医療機関の紹介や各専門分野の医師の助言を伝えてゆく。

このような啓蒙助言活動は今後もきめ細かく対応してゆく所存である。

以上